



平成23年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年5月9日

上場会社名 株式会社 ビューティ花壇
コード番号 3041 URL <http://www.beauty-kadan.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三島美佐夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 須浪薫

TEL 03-5819-5670

四半期報告書提出予定日 平成23年5月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年6月期第3四半期の連結業績(平成22年7月1日～平成23年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年6月期第3四半期	3,090	2.4	119	△6.5	118	△11.1	90	70.5
22年6月期第3四半期	3,019	6.7	128	—	133	—	53	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年6月期第3四半期	4,201.09	4,184.85
22年6月期第3四半期	2,170.64	2,127.70

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年6月期第3四半期	1,532	523	30.6	21,990.24
22年6月期	1,504	487	29.6	20,122.42

(参考) 自己資本 23年6月期第3四半期 469百万円 22年6月期 444百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年6月期	—	0.00	—	1,300.00	1,300.00
23年6月期	—	0.00	—	—	—
23年6月期 (予想)	—	—	—	1,628.00	1,628.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年6月期の連結業績予想(平成22年7月1日～平成23年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,100	2.0	160	△21.2	160	△23.4	110	15.8	5,111.94

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】4ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 — 社（社名 _____）、除外 — 社（社名 _____）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年6月期3Q 25,380株 22年6月期 25,108株

② 期末自己株式数 23年6月期3Q 4,032株 22年6月期 3,000株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年6月期3Q 21,574株 22年6月期3Q 24,490株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済状況等様々な不確定要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する項目については、添付資料の3ページの「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善など持ち直しへ向けた動きがみられるものの、雇用情勢は依然として厳しく、デフレの長期化、東日本大震災の影響など先行き不透明な状況で推移しております。

当社グループの事業を取り巻く環境としましては、ブライダル需要は横ばい、件数が増えているフェーネラル需要も単価が下落傾向であるため、花の需要はトータルで横ばいに留まっているものと思われま

す。当社グループは、中期経営計画の目標達成に向けてグループ一丸となって取り組んでおります。基本方針として、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客内での当社への発注シェアアップによる売上アップ、徹底的な経費削減を引き続き推進してまいりました。

このような状況のもと、平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災により、東北地方での市場の冷え込みによる影響を一部受け、当社グループの売上高は、3,090,689千円（前年同期比2.4%増）となりました。また、中期経営計画の目標達成のための先行投資として生花祭壇事業の費用が一時的に増加したこと等により売上総利益については、654,767千円（前年同期比4.9%減）となりました。販売費及び一般管理費については、535,089千円（前年同期比4.5%減）となりました。その結果、営業利益は119,678千円（前年同期比6.5%減）、経常利益は118,583千円（前年同期比11.1%減）、本社移転に伴う移転補償金の入金により四半期純利益は90,637千円（前年同期比70.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（生花祭壇事業）

生花祭壇事業の売上高は、2,351,705千円（前年同期比2.9%増）となりました。当事業が主として属する葬祭業界におきましては、消費者の支出は景気動向の影響は直接的には受けにくいといわれておりますが、経済産業省「特定サービス産業動態統計速報」（サンプル調査）によると、葬儀業の平成22年7月から平成23年2月までの売上高は339,218百万円（前年同期比3.8%増）、件数は235,496件（前年同期比7.1%増）となっております。当社の当第3四半期連結累計期間における国内の生花祭壇の受注件数は、前年より322件増えて13,297件となりました。このような状況の中、前述の全社基本方針を徹底してまいりましたが、東日本大震災の影響により仙台支社の主たる商圏のお取引先様が震災の影響を受け、約1か月通常営業を行うことが出来ず、その影響を受けました。営業利益については306,011千円（前年同期比11.3%減）となりました。

（生花卸売事業）

生花卸売事業の売上高は577,230千円（前年同期比1.6%減）となりました。当事業の主要商品である菊花が例年より安値で推移したこと、また、通常3月はお彼岸需要により当事業において、売上が期待できる月でありましたが、先の東日本大震災による影響でお彼岸需要が大きく減少いたしました。その結果、当社の当第3四半期連結累計期間の切花取扱数量は前年同期比で11.5%減、金額では前年同期比0.1%増となっております。その一方で、台湾から輸入している胡蝶蘭の販売が順調に推移したことにより、営業利益は137,547千円（前年同期比21.3%増）となりました。

（その他）

その他事業は、主に連結子会社の株式会社クラウンガーデネックスにおけるブライダル事業であります。前連結会計年度に開始した東京での事業が順調に推移し、売上高は161,754千円（前年同期比10.5%増）、営業損失は1,643千円（前年同期は10,612千円の損失）となりました。生花仕様の見直し、生花仕入れルートの多様化による仕入原価の低減と経費削減を推進したことにより収益の改善がみられました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ28,021千円増加し、1,532,322千円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ28,168千円減少し、914,624千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少と受取手形及び売掛金の増加によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ56,190千円増加し、617,698千円となりました。これは主に、差入保証金の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ7,778千円減少し、1,009,036千円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ40,426千円減少し、667,940千円となりました。これは主に、短期借入金と未払法人税等の減少によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ32,648千円増加し、341,095千円となりました。これは主に、社債の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ35,799千円増加し、523,286千円となりました。これは主に、利益剰余金の増加及び自己株式の取得による減少によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べ59,234千円減少し、399,713千円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において、営業活動の結果獲得した資金は90,917千円（前年同期は86,670千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益146,152千円の計上の一方で、法人税等の支払額84,158千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において、投資活動の結果使用した資金は100,266千円（前年同期は38,603千円の獲得）となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出56,343千円と差入保証金の差入による支出56,508千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において、財務活動の結果使用した資金は46,988千円（前年同期は132,064千円の使用）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出38,164千円と配当金の支払額28,740千円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、平成22年8月10日（平成22年6月期決算短信）に公表いたしました数値を修正しております。修正内容につきましては平成23年5月6日に発表しております「平成23年6月期通期業績予想（連結及び個別）の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益が2,486千円減少し、税金等調整前四半期純利益が4,834千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始により、投資その他の資産の「差入保証金」が4,834千円減少しております。

②表示方法の変更

四半期連結損益計算書

前第3四半期連結累計期間において、特別損失の「その他」に含めておりました「固定資産除却損」は、特別損失総額の100分の20を超えたため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記することとしております。なお、前第3四半期連結累計期間の特別損失の「その他」に含まれる「固定資産除却損」は1,053千円であります。

3. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	399,713	458,947
受取手形及び売掛金	417,158	387,147
商品	8,861	6,318
仕掛品	465	463
原材料及び貯蔵品	12,450	14,314
その他	79,383	78,762
貸倒引当金	△3,408	△3,160
流動資産合計	914,624	942,793
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	114,032	121,908
減価償却累計額	△54,319	△54,627
建物及び構築物(純額)	59,712	67,280
工具、器具及び備品	167,996	171,963
減価償却累計額	△110,602	△100,145
工具、器具及び備品(純額)	57,394	71,818
土地	122,842	122,842
その他	58,235	6,061
減価償却累計額	△5,269	△5,028
その他(純額)	52,966	1,032
有形固定資産合計	292,916	262,973
無形固定資産	19,205	31,003
投資その他の資産		
差入保証金	165,944	140,906
その他	159,169	144,810
貸倒引当金	△19,537	△18,185
投資その他の資産合計	305,577	267,532
固定資産合計	617,698	561,508
資産合計	1,532,322	1,504,301

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	63,893	82,626
短期借入金	190,400	231,700
未払法人税等	22,444	54,398
賞与引当金	24,525	—
その他	366,677	339,642
流動負債合計	667,940	708,367
固定負債		
社債	100,000	65,000
長期借入金	203,674	202,000
退職給付引当金	13,615	11,634
その他	23,806	29,813
固定負債合計	341,095	308,447
負債合計	1,009,036	1,016,815
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	211,880
資本剰余金	133,240	131,880
利益剰余金	273,897	212,000
自己株式	△142,851	△104,687
株主資本合計	477,525	451,072
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△8,078	△6,206
評価・換算差額等合計	△8,078	△6,206
少数株主持分	53,838	42,619
純資産合計	523,286	487,486
負債純資産合計	1,532,322	1,504,301

(2)【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)
売上高	3,019,476	3,090,689
売上原価	2,331,236	2,435,922
売上総利益	688,240	654,767
販売費及び一般管理費	560,225	535,089
営業利益	128,014	119,678
営業外収益		
受取利息	1,034	394
受取地代家賃	8,250	8,224
その他	6,522	3,957
営業外収益合計	15,807	12,576
営業外費用		
支払利息	5,598	8,173
不動産賃貸費用	2,996	3,140
その他	1,779	2,356
営業外費用合計	10,374	13,670
経常利益	133,447	118,583
特別利益		
固定資産売却益	—	1,501
償却債権取立益	339	—
移転補償金	—	40,271
特別利益合計	339	41,772
特別損失		
固定資産除却損	—	7,656
前期損益修正損	15,558	—
リース解約損	7,129	—
その他	1,325	6,548
特別損失合計	24,014	14,204
税金等調整前四半期純利益	109,772	146,152
法人税、住民税及び事業税	53,434	55,200
法人税等調整額	△5,662	△12,776
法人税等合計	47,772	42,423
少数株主損益調整前四半期純利益	—	103,728
少数株主利益	8,839	13,090
四半期純利益	53,160	90,637

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	109,772	146,152
減価償却費	42,723	39,146
差入保証金償却額	—	2,522
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	2,347
長期前払費用償却額	5,928	8,347
貸倒引当金の増減額(△は減少)	6,772	1,621
賞与引当金の増減額(△は減少)	22,301	24,525
退職給付引当金の増減額(△は減少)	847	1,981
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△3,500	—
受取利息	△1,034	△394
受取賃貸料	△8,250	△8,224
助成金収入	△2,130	△2,188
支払利息	5,598	8,173
不動産賃貸費用	2,996	3,140
固定資産除売却損益(△は益)	—	6,154
売上債権の増減額(△は増加)	△88,539	△31,690
たな卸資産の増減額(△は増加)	△8,103	△681
その他の資産の増減額(△は増加)	△2,270	3,695
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△8,378	△1,415
仕入債務の増減額(△は減少)	27,963	△17,875
その他の負債の増減額(△は減少)	△4,636	△12,243
その他	2,973	924
小計	101,033	174,020
利息の受取額	1,527	394
賃貸料の受取額	6,394	6,224
助成金の受取額	2,130	2,188
利息の支払額	△5,748	△7,751
法人税等の支払額	△18,666	△84,158
営業活動によるキャッシュ・フロー	86,670	90,917

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成22年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	60,000	—
貸付けによる支出	△6,084	△1,620
貸付金の回収による収入	5,122	3,125
有形及び無形固定資産の取得による支出	△20,257	△56,343
有形及び無形固定資産の売却による収入	—	1,945
投資有価証券の取得による支出	△2,000	—
差入保証金の差入による支出	△7,777	△56,508
差入保証金の回収による収入	9,600	26,604
保険積立金の積立による支出	—	△17,459
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	—	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	38,603	△100,266
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	662,241	300,000
短期借入金の返済による支出	△759,841	△341,300
長期借入れによる収入	200,000	215,000
長期借入金の返済による支出	△65,694	△205,860
社債の発行による収入	—	100,000
社債の償還による支出	△105,000	△45,000
株式の発行による収入	4,380	2,720
自己株式の取得による支出	△52,968	△38,164
配当金の支払額	△8,487	△28,740
その他	△6,693	△5,643
財務活動によるキャッシュ・フロー	△132,064	△46,988
現金及び現金同等物に係る換算差額	△400	△2,896
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△7,190	△59,234
現金及び現金同等物の期首残高	228,784	458,947
現金及び現金同等物の四半期末残高	221,593	399,713

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)

	生花祭壇 事業 (千円)	生花卸売 事業 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	2,286,340	586,724	146,411	3,019,476	—	3,019,476
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	5,493	692,739	11,943	710,176	△710,176	—
計	2,291,833	1,279,463	158,355	3,729,653	△710,176	3,019,476
営業利益(又は営業損失(△))	345,020	113,434	△10,612	447,842	△319,827	128,014

(注) 1. 事業区分の方法

事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分に属する主要な製品

(1) 生花祭壇事業……生花祭壇、供花

(2) 生花卸売事業……菊、胡蝶蘭などの生花

(3) その他……ブライダル、ギフトなどの祝事に関する生花、園芸装飾等の緑化事業商品

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,907,402	112,074	3,019,476	—	3,019,476
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	8,000	88,178	96,178	△96,178	—
計	2,915,402	200,252	3,115,655	△96,178	3,019,476
営業利益	405,312	37,005	442,317	△314,302	128,014

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 日本以外の区分に属する主な国又は地域

アジア……台湾

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年7月1日 至 平成22年3月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分決定を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、冠婚葬祭の生花に係わる事業活動を展開しております。その中で、「生花祭壇事業」及び「生花卸売事業」の2つを報告セグメントとしております。

各事業の概要は下記のとおりであります。

生花祭壇事業：生花祭壇、供花等、葬儀における生花を使用した商品を作成して販売する事業

生花卸売事業：自社の祭壇事業で使用する生花の仕入及び葬儀関連会社の生花部や生花小売店に対して、生花を販売する事業

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自平成22年7月1日至平成23年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生花祭壇事業	生花卸売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,351,705	577,230	2,928,935	161,754	3,090,689	—	3,090,689
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	680,946	680,946	10,808	691,755	△691,755	—
計	2,351,705	1,258,176	3,609,881	172,563	3,782,445	△691,755	3,090,689
セグメント利益又は損失 (△)	306,011	137,547	443,558	△1,643	441,915	△322,236	119,678

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ブライダル事業等であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△322,236千円には、セグメント間取引消去6,669千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△328,906千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。